

歴史講演会要旨

盛岡市を代表する歴史遺産・盛岡城は、南部氏の手により慶長2(1597)年3月6日、起工式にあたる「鋤初」「鋤初」の儀式が行なわれ、本格的な築城工事が始まったとされています(諸説あり)。今年はその年から420年、これを記念して最近の盛岡城に関する研究成果の報告と、歴史研究の第一人者・小和田哲男氏、城郭ライターの萩原さちこさんによる歴史講演会を企画いたしました。講演は、今話題の「女城主」の活躍について、江戸時代の初めに遠野南部家を支えた清心尼の話をお和田氏が、豊臣流の築城法で築かれた各地の城の構造比較について、盛岡城を中心に萩原さんが話します。

＊講演会終了後、講師著作本の販売会とサイン会を行います。お楽しみに。

講師・演題(登場順)

開会行事 主催者あいさつ 【13:00-13:30】
趣旨説明 盛岡城築城420年について
講師紹介

萩原さちこ

〈城郭ライター・『探訪ブック盛岡城』監修〉

盛岡城の魅力、再発見 【13:30-14:30】

小和田哲男

〈静岡大学名誉教授・公益財団法人日本城郭協会理事長
NHK大河ドラマ『おんな城主 直虎』時代考証担当〉

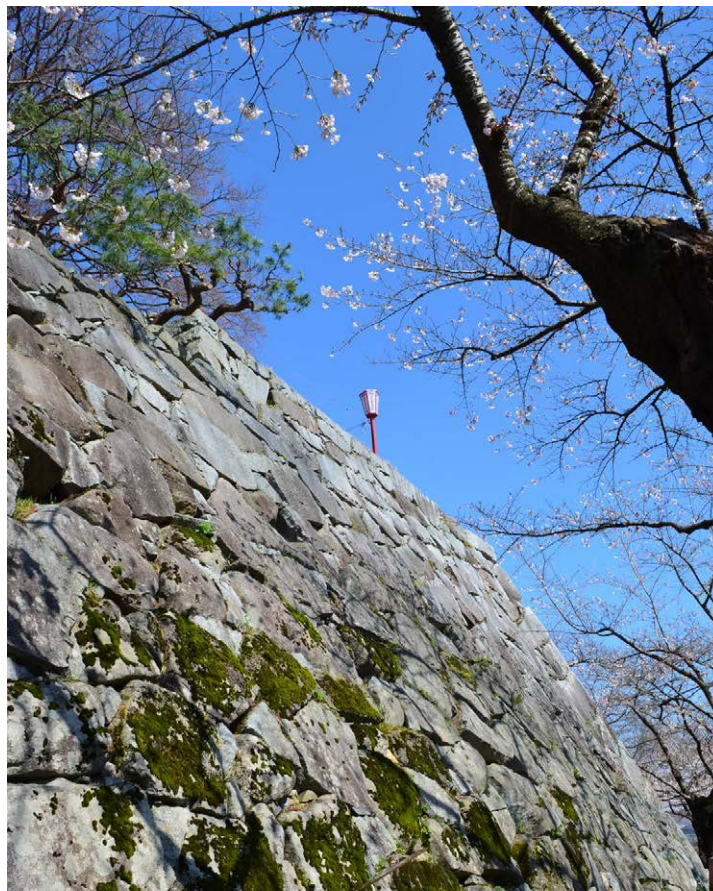
南部にもいた女城主 一清心尼とその時代一

【14:30-16:00】

小和田哲男氏略歴 昭和19(1944)年、静岡市に生まれる。昭和47(1972)年、早稲田大学大学院文学研究科博士課程修了(文学博士)。静岡大学講師、助教授、教授を経て、現在、静岡大学名誉教授(日本中世史専攻)、公益財団法人日本城郭協会理事長、学術団体日本城郭史学会委員。

主な著書／『後北条氏研究』(吉川弘文館)、『小和田哲男著作集』(全7巻、清文堂出版)、『歴史探索入門』『戦国三姉妹』(以上、角川選書)、『今川義元』『黒田如水』『戦国史を歩んだ道』(以上、ミネルヴァ書房)、『戦国大名と読書』(柏書房)、『図説日本100名城の歩き方』(ふくろうの本/日本の文化)ほか多数。

萩原さちこさん略歴 城郭ライター、編集者。小学校2年生のとき城に魅せられる。日本人の知恵、文化、伝統、美意識、歴史のすべてが詰まった日本の宝に虜になり、城めぐりがライフワークに。執筆業を中心に、メディア・イベント出演、講演、講座、ガイドなどをこなす。「城フェス」実行委員長。公益財団法人日本城郭協会学術委員会 学術委員。主な著書／『わくわく城めぐり』(山と溪谷社)、『戦国大名の城を読む』(BS新書)、『日本100名城めぐりの旅』(学研パブリッシング)、『お城へ行こう!』(岩波ジュニア新書)、『図説・戦う城の科学』(サイエンス・アイ新書)、『江戸城の全貌一世界的巨大城郭の秘密』(さくら舎 3月8日発売、最新刊)など多数。監修『探訪ブック盛岡城』(川口印刷工業)



南部家と盛岡築城

現在盛岡城跡公園(岩手公園)となつている場所は、三戸城(青森県三戸町)を本拠とする南部信直に従う福士氏の居城で、不来方城という城がありました。天正19(1591)年9月、豊臣秀吉の側近・浅野長吉は、秀吉の命による北東北の「仕置」を終えて大坂に帰る途中、この城に立ち寄り、信直に対し三戸城に替わる新しい城をここに築くよう勧めたといわれます。このため不来方城は福士氏の手を離れ、翌文禄元(1592)年、信直は息子の利直に命じて築城工事を始めたと考えられます。利直は不来方城の地形を利用しながら整地工事を進めた模様で、慶長2(1597)年3月6日、石垣を築く起工式「鋤初」「鋤

初」が行なわれました(「祐清私記」等による推測)。現在のところ、盛岡城築城当時の様子を伝える史料は後世に書かれた記録類が中心で、正確な史料を欠いています。したがって多くのことが謎に包まれ、推測で考えられているのです。

「女城主」清心尼と

八戸・遠野

その頃、根城の城主・八戸南部家では八戸直栄が文禄4(1595)年に若くして死亡、弟の直政が後を継ぎましたがまだ9歳。その妻・彌禰も10歳で、母の千代子が子ども夫婦の後見人になりました。千代子は南部信直の娘、事実上の「女城主」で

す。やがて直政は立派な若殿に成長しましたが、慶長19(1614)年に28歳で病死。そこで急遽、家を継いだのが妻の彌禰でした。領地1万2500石を預かる、母に続いての「女城主」誕生です。後に彼女は出家して「清心尼」と称するようになります。

元和6(1620)年、彌禰は自分の娘に婿養子・直義を迎え、その後見人となりました。19歳の若殿誕生です。しかし寛永4(1627)年2月、南部利直は国境警備と遠野郷の治安を守り、伊達政宗との緊張関係に備えるため、八戸氏に対し遠野への「所替え」を命じたのです。八戸家中の人びとは、先祖代々住み慣れた根城を去り、早春3月に3泊4日の強行軍で遠野に移住、やがて善政を敷き治安を回復しました。

このときの道中を再現したまつりが、毎年4月、八戸市大館地区と遠野市で盛大に行なわれています。八戸市では「出立行列」、遠野市では「入部行列」と呼んでいます。両市の絆は女城主・清心尼によって今なお固く結ばれているのです。



「清心尼公碑」と墓所(岩手県遠野市)